

議題

第9回科学委員会会合に付属する拡大科学委員会
2004年9月13-16日 大韓民国済州島

1. 開会
 - 1.1 参加者の紹介
 - 1.2 会議運営上の説明

2. ラポルツアアの任命

3. 議題及び文書リストの採択

4. SBT 漁業のレビュー
(メンバーは提出したレポートの説明を行う。事務局はメンバーからの漁獲報告に基づき作成した表を発表する。)

5. 第5回資源評価グループ会合報告書から提起された問題
 - 5.1 漁業指標及び評価結果のレビュー
 - 5.2 SBT 資源の状況
(科学委員会は資源評価グループからの最新の資源評価の結果をレビューし、SBT の資源状況についてさらなる見解を示す。これは、SBT の資源状況に関し ICCAT に提出する報告書概要の準備となる。)

 - 5.3 SBT の管理の勧告
(科学委員会は CCSBT11 のために、SBT 資源の管理のための勧告を行う。)

 - 5.4 SBT の管理目的
(科学委員会は最新の資源評価及びCCSBT10 で上げられた質問を2004年4月の委員会特別会合で議論された管理目標の範囲に関連させる。)

6. 管理手続き
 - 6.1 最新化されたオペレーティングモデルの結果及び選択された管理手続き試験の評

価

(科学委員会は、2004年4月の拡大委員会特別会合報告書別紙7の作業計画に沿って、資源評価グループ及び独立パネルの行った作業をレビューする。)

7. 2005年の作業計画

7.1 2005年資源評価に必要なもの

7.2 CCSBT11への結果発表も含め、管理手続きの評価の作業計画及びタイムテーブル

7.3 他の作業計画

8. 科学調査計画(SRP)の実施

8.1 SBT漁獲の特徴

(事務局はメンバーからの漁獲報告に関し簡単な発表を行う。第8回科学委員会では、今会合においてCCSBTの科学的なプロセスに提供するデータの基準を設定することについてさらに検討することが留意された。)

8.2 CPUEの解釈と分析

(CPUEモデリング運営委員会が第8回科学委員会以降に行った作業について報告する。)

8.3 科学オブザーバー計画

(メンバーはCCSBTオブザーバー基準の実施について報告する。メンバーは各国SBT漁業の全般にわたる本件の実施に関しても報告を行う。)

8.4 SBT標識放流計画

(事務局は2003-2004年漁期における表層漁業標識放流計画に関する報告を発表する。オーストラリア、日本及びニュージーランドは、各国が管理するはえ縄漁業における標識放流に関し発表する。技術作業部会が招集され、漁獲死亡率及び加入傾向を推定するために現在行われている標識放流及びその再捕計画の評価及び報告を行う。)

8.5 直接年齢査定

(メンバーは第8回科学委員会で合意された計画に基づき採集された耳石に関し、その採取及び年齢の読み取りについて簡単な発表を行う。)

8.6 他のSRPの要件

9. CCSBT データベースの開発

9.1 CCSBT データベースの状況

(データベースマネージャーが現在の CCSBT のデータベースの状況に関し報告する。)

9.2 FAO の FIRMS/FIGIS(漁業資源モニタリングシステム/全世界漁業情報システム) への参加

(CCSBT 及び FAO の協力協定と一致した FIRMS/FIGIS のためのデータ及び報告の準備を科学委員会に求める。)

9.3 CCSBT データへのアクセスについて

(第 8 回科学委員会においては他の漁業委員会がデータ報告書等の形でデータを提供していることが留意された。本会合ではこのような案がさらに考慮されるかもしれない。)

10. データ交換

10.1 2004 年におけるデータ交換のレビュー

10.2 2005 年におけるデータ交換の必要条件

(事務局は拡大委員会の業務として必要とされるデータの交換の概要について説明する。)

11. インドネシアの漁獲監視

(科学委員会はインドネシアからの漁獲報告についてその位置づけ及び将来のあり方を再考し、また、産卵場における活動のデータを将来維持するために何を収集しなければならないのか拡大委員会への勧告を考察する。第 8 回科学委員会では、この作業のための IOTC からの拠出は 2005 年で終わり、他のオプションとしてベノアにおけるモニタリングの継続は最優先事項として考慮される必要があることに留意した。)

12. 2005 年調査活動の概観、タイムスケジュール及び予算

13. その他事項

14. 会議報告書の採択

15. 閉会